

三年ぶり、第七回よぎトックリキワタまつり開催

コロナウイルス感染症拡大のあおりを受け、ここ二年は縮小して開催していたよぎトックリキワタまつりですが、今年度二〇二二年、11月26日にもとの規模で開催しました。

この日のまつりは、子どもたちのみちジュネーから始まり、続いて与儀八三会から貸していただいた大切な綱引きをトックリキワタ通りの路上で行いました。その後、子どもの旗頭、地域の方々のパフォーマンスを楽しみ最後は真和志青年会のエイサーで締めました。着任間もない知念覚那覇市市長も多忙の中まつりに駆けつけていただき、路上で繰り広げられる出し物を一時間あまりも楽しんで帰られました。

まつりでは約一〇〇〇人の人出をみました。まつり実行委員会は、地域の方々がこのまつりを楽しみに思っているという手ごたえを感じたようです。



▶初めての綱引き



▲知念市長と饒波実行委員長 ▲真和志青年会のエイサーで締め ▲寄宮中学校マーチングバンド

平和のメッセージ



トックリキワタまつりのなかで、与儀小学校から世界へ向けて平和のメッセージが発信されました。思いを込めた平和のメッセージが書かれた三百通あまりのはがきは、与儀小学校六年生から与儀郵便局長、兼城智明さんに手渡されました。その後はがきは、与儀の風景印、徳利わたのすけ印を押され各国大使館に送られました。二〇二三年こそ、どの国にも平和がおとずれますように……。

与儀小六年生 県立看護大学で「性」について学ぶ

12月21日10時、与儀小学校六年生は県立看護大学を訪れ、くつろいだ雰囲気の中で大学生たちから「性の多様性」について学びました。小学校保健室の島袋久良々（くらら）先生と与儀小学校で読み聞かせのボランティアを行っている看護大生でこの企画は立てられました。「あなたの好きなものは何ですか？」という問いかけから学びは始まりました。この問いへの答えを小グループの全員で共有すると自分に好きなものがあるように相手にも好きなものがあることがわかり、自分の好きなものを守りたいように



▶島袋久良々先生

守りたいように



▲与儀小六年生と兼城局長



徳利わたのすけ与儀風景印▶

小耳にはさんだ黄金言葉

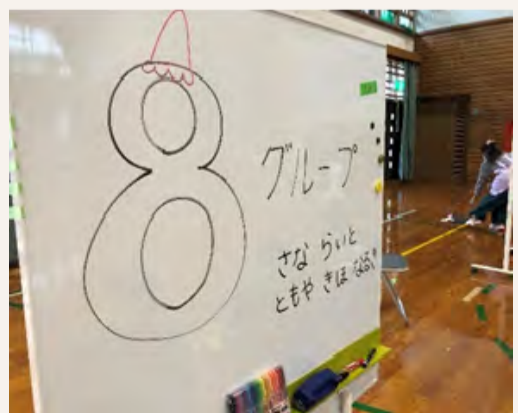
「子ども達は、問いかければ答えしてくれるが問いかけなければただ通り過ぎるだけ」この言葉は雑談のなかで崎山校長が発した言葉です。子供は大人とは違った時間を生きています。一瞬一瞬を生きている子供たちに「あとでね」はありません。関わるなら「今」しかない。そんなことを考えさせた言葉でした。（文責のは）



▼真剣に討議中



とする看護大生の皆さん、すばらしい学びの時を設けてくれてありがとうございます。柳田帆貴さんをはじめ



◀小グループで討議

相手も好きなものを守りたい。このことを知ることが多様性を認める心の原点だと話が進みました。心にすっと入ってくる気づきでした。柳田帆貴さんをはじめ

よぎのニュース

大嶺一仁君プログラミングコンテスト 二〇二三年で三位入賞!

与儀小学校六年生、大嶺一仁君がプログラミングコンテストで三位入賞しました。大嶺君はプログラミングをインターネットからの情報を頼りに独学で学んだそうです。ここでは一仁君自身の言葉を聞いてみましょう。

マイナスは、プラスのもと

「やったー。3位だ!!」

ぼくは、とび上がって喜びました。ぼくは、那覇市プログラミングコンテスト2022年にチャレンジしました。だから結果をとっても楽しみにしていたのです。去年、友達が入賞したので次は、ぼくも挑戦するぞと思っていました。

ぼくの作品は那覇っ子みんなで遊ぼう! SDGs ルーレットです。SDGsの十七の内容をみんなが遊びながら楽しく学べるようにルーレットとクイズ形式にして工夫しました。大変だったことは、ルーレットを回すところをプログラミングすることです。クイズに音を入れることもがんばりました。ぼくは、パソコンが大好きです。だから自分でいつも工夫しながら色々な作品を作っています。多くのプログラミングしたゲームでみんなと遊ぶ事が一番楽しい時間です。

実は、ぼくは、お熱で、楽しみにしていた修学旅行に行けませんでした。とてもくやしくてかなしかったです。でもパソコンとタブレットをかせてもらえたので、そのくやしき気持ちもプログラミングコンテストの作品作りのパワーにしました。

だから3位入賞が本当にうれしかったです。

マイナスなことがおこってもプラスにかえていけると学びました。

これからいろいろなことにチャレンジしたいです。そして、将来パソコンの仕事をしたいです。

(直筆原稿)



▶大嶺一仁君とSDGsルーレット



五年生をふり返って 五年生 長田 千茶

五年生をふり返ってがんばった事は三つあります。一つ目は、運動会です。なぜなら、みんなで一しょうけん命エイサーの練習をしたからです。大だいこの人、パーランクーの人達全員で向きなどを合わせられるようにがんばって、運動会で練習の成果を見せられることができました。そして二つ目が、べん強です。テストで百点を取れるようにがんばりました。とくに算数がんばりました。がんばって苦手な事にもよく考えて答えを出そうとするということにもがんばりました。がんばった結果、苦手なテストで少し点数があがって、がんばって良かったと思いました。三つ目は、委員会です。放送委員会になって、ほうそう器具の使い方、音楽の流し方について、一しょうけいめい覚えめました。はじめて放送するときはかまないように、元気な声でやろうとがんばって放送をしました。それから、いっぱい放送する前に練習をできるように、時間に間に合わせるために、時間にも意しきをしました。そして、放送をしたあと、先生にほめられたのががんばってよかったなと思いました。六年生になっても放送委員をがんばって、新しい五年生に、放送の楽しさなどを教えてあげたいです。六年生になっても、がんばりたいと思います。(直筆原稿)

5年生でがんばったこと 五年生 荒木 愛蘭

五年生私が5年生で頑張ったことは2つあります。

1つ目は、算数で習った分数の授業です。約分をしたり、通分したりするのがとても難しかったです。算数は苦手だけどあきらめずに、頑張りました。

2つ目は、国語で学習した伝記を読み、自分の生き方について考えたことです。アンパンマンの作者やなせたかさんの「本当の正義とは、おなかのすいている人に、食べ物を分けてあげることだ。」という言葉に感心し、自分も誰かを助けられる人になりたいと思いました。

6年生になったら、算数と体育をがんばりたいです。算数は、苦手なので6年生になったらしっかり先生の話聞いて、もっとできるようになりたいです。体育は、走ることが得意じゃないので6年生になったら頑張りたいです。(ワープロ原稿)

「50年ぶり!」



那覇市立与儀小学校
校長 崎山 嗣一郎

皆さんこんにちは、令和四年度那覇市立与儀小学校へ赴任してきた校長の崎山 嗣一郎(しいちろう)です。「昭和のはじめしゅうれいの...」これは、与儀小学校校歌の冒頭部分です。四月七日始業式の中で、この校歌を聴いて一気に懐かしさがこみ上げてきました。なぜなら私は、与儀小学校第69期卒業生だからです。その当時、休み時間や運動会で走った運動場に立ちながら校歌を聴き思い出が一気に蘇ってきました。温かく迎えてくれた児童・教職員の皆さんを前にして、感慨深いも

のがありました。と同時に与儀小学校のために頑張るぞと一層強い思いも生まれました。卒業当時、在校児童が約2500名と一番ピークの年でした。翌年度から古蔵小への分離があった年度です。例えば、運動会では父母、祖父母の四名が参観にきたら約一万人の参観者です。昼食時には、児童も家族の方もお互いに必死に探し合い、迷い子の放送が流れ人がごったがえしていました。運動会が行われたあの時の賑わいは今でも鮮明に覚えています。さて、昨今新型コロナウイルスが発生して以来、我々を取り巻く環境が激変しています。このような予測困難な社会背景の中でも、与儀っ子は、毎日元気に登校し、頑張っています。そんな子ども達

「夢をもち、自分を高め、学び続ける子」が、本校の教育目標です。夢や希望を語りそれに向かっていける児童・教職員の学び合いを大切にしたい教育実践を職員一同で創っていきたくと思っています。その為にも、教職員・保護者及び地域の皆様と学校目標に向かい希望にあふれる学校づくりを目指し連携した関係性を深め構築したいと考えています。今後ともなお一層のご理解・ご協力とご支援を宜しくお願いします。

スナップshot

▷こんなに小さな桜の木も花を咲かせていました



コロナウィルス感染拡大は学校でのパソコンの普及を後押ししました。一仁君の言葉によると、これも「マイナスはプラスのもと」になるかもしれませんね。

2022年 地域交流会



12月13日、地域交流会が三年ぶりに開催されました。途中、謎の怪女ナビの乱入で上を下への大騒ぎになりました。恐るべしナビでも誰なんだろう?

...つづく



毎月第一金曜日は地域パトロールを行っております。三月までは18時30分集合、四月からは19時集合になります。集合場所は沖縄銀行与儀・識名支店前です。

編集後記

まち協だより45号は、鏡波が編集責任者になって発行いたします。まず12月発行予定が、大きく遅れましたことをお詫びいたします。まちでは日々いろいろなことが起こっています。その全部を紙上に取り上げることはできませんが、お知らせいただければ取材には参りますので情報提供をお願い致します。(文責のは)

